

令和8年度 土木工事標準歩掛の改定概要

国土交通省 大臣官房
参事官(イノベーション)グループ

土木工事標準歩掛 令和8年度 改定概要

- 土木工事標準歩掛は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における単位施工量当たり、若しくは日当たりの労務、材料、機械等の規格や所要量について工種ごとにとりまとめたものです。
- 「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、新規工種の制定及び既存制定工種の改定を行いました。  **令和8年度は、計24工種の改定を実施**

(1) 新規制定：7工種

- ①鉄筋工 ②土のう工 ③防塵処理工
- ④橋梁補修工（塗装塗替足場工） ⑤橋梁補修工（高力ボルト当て板鋼桁補強工）
- ⑥トンネル補修工 断面修復工（左官工法） ⑦トンネル補修工 剥落防止対策工（可視繊維シート接着工）



鉄筋工



土のう工



防塵処理工



橋梁補修工
(塗装塗替足場工)



橋梁補修工
(高力ボルト当て板鋼桁補強工)



トンネル補修工 断面修復工
(左官工法)



トンネル補修工 剥落防止対策工
(可視繊維シート接着工法)

道路維持修繕工事に関する歩掛を新たに4工種制定

(2) 使用機械、労務等の変動による改定：8工種

- ①鋼管・既製コンクリート杭打ち（鋼管ソイルセメント杭工）
- ②場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）
- ③ニューマチックケーソン工
- ④仮橋・仮栈橋工
- ⑤仮囲い設置・撤去工
- ⑥切削オーバーレイ工（ICT）
- ⑦道路除雪工
- ⑧架設支保工



鋼管ソイルセメント杭工



ニューマチックケーソン工



道路除雪工

(3) 移動時間を考慮した改定：6工種

- ①濁水処理工（一般土木工事）
- ②地すべり防止工（ふとんかご）
- ③トンネル補修工 ひび割れ補修工（低圧注入工）
- ④トンネル工（NATM）〔発破工法〕
- ⑤トンネル濁水処理工
- ⑥伸縮装置工（鋼製）

(4) 建設機械の回送時間を考慮した改定：1工種

- ①トンネル工（NATM）仮設備工（防音扉工）

(5) 作業休止時間を考慮した歩掛の改定：1工種

- ①路上路盤再生工

(6) 資材の搬入制約を考慮した歩掛の改定：1工種

- ①PC橋架設工



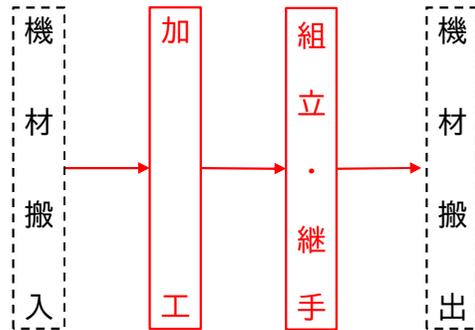
トンネル工（NATM）〔発破工法〕



PC橋架設工

鉄筋を設計図書に示された形状及び寸法に一致するように、現場において鉄筋加工機等を用いて加工し、鉄筋結束により組み立てる工法

【施工フロー】



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

赤字：制定箇所

【主な制定概要】

- 現場における加工、組立、継手の歩掛を新規制定
- 加工、組立は、「一般構造物」「橋梁用床版」「場所打ち杭の鉄筋かご」「トンネル内構造物」「差筋および杭頭処理」に適用
- 継手は、「ガス圧接継手」「機械式継手（グラウト）」「機械式継手（ねじ加工）」に適用

●加工

名称	単位	鉄筋径 (mm)						
		10~13	16~25	29~32	35	38	41	51
土木一般世話役	人	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
鉄筋工	人	2.3	1.7	1.2	1.1	1.0	1.0	0.8
普通作業員	人	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ラフテレーンクレーン運転	日	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
諸雑費	%	12						

●組立(一般構造物/トンネル内構造物)

名称	単位	鉄筋径 (mm)						
		10~13	16~25	29~32	35	38	41	51
土木一般世話役	人	0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
鉄筋工	人	3.5	2.9	2.1	1.7	1.4	1.2	1.1
普通作業員	人	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
ラフテレーンクレーン運転	日	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
諸雑費	%	8			11			

●組立(橋梁用床版) (1t当り)

名称	単位	鉄筋径 (mm)	
		10~13	16~25
土木一般世話役	人	0.5	0.4
鉄筋工	人	3.5	2.9
普通作業員	人	0.3	0.2
ラフテレーンクレーン運転	日	0.11	0.11
諸雑費	%	8	

●ガス圧接継手

名称	単位	鉄筋径 (mm)					
		16~25	29~32	35	38	41	51
土木一般世話役	人	0.2	0.5	0.6	0.8	0.9	1.5
鉄筋工	人	0.5	1.3	1.7	2.1	2.5	4.2
溶接工	人	1.2	2.9	4.3	5.0	6.1	10.2
普通作業員	人	0.4	1.0	1.3	1.6	1.9	3.2
アセチレンガス	kg	5.0	6.5	21.0	35.0	38.5	105.0
酸素	m3	5.0	6.5	14.0	23.0	27.4	70.0
諸雑費	%	8					



加工



ガス圧接継手



組立

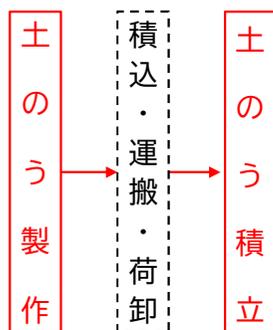


機械式継手 (グラウト)

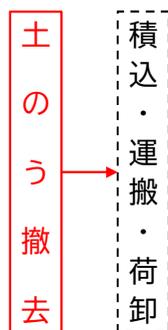
土のう袋に土砂を詰め、簡易な仮締切工等における仮設材として施工する工法

【施工フロー】

製作・積立



撤去



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

赤字：制定箇所



土のう製作



土のう積立

【主な制定概要】

- 1段以上の小口並べまたは側面並べによる土のう積の歩掛を新規制定
- 施工基面から1.0m以下の積立作業に適用
- 乱積による土のう積みは適用外

● 製作・積立歩掛

(100袋当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.2
普通作業員	//	2.9
諸雑費率	%	0.3

- (注) 1. 土のうを製作してから積立までの現場内小運搬を含む。なお、現場内小運搬は10m程度とする。
 2. 製作現場と積立現場が異なる場合は、積込、運搬、荷卸などの必要な費用を別途計上する。
 3. 諸雑費は、スコップ等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 足場が必要な場合は、別途計上する。

● 撤去歩掛

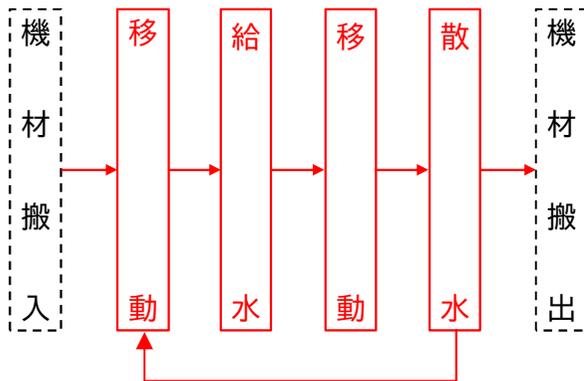
(100袋当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	1.6
諸雑費率	%	0.2

- (注) 1. 撤去は、中詰材排出の有無を問わず適用する。
 2. 中詰材排出後の袋材等の現場内小運搬及び、再利用を目的とした仮置き場までの現場内小運搬を含む。なお、現場内小運搬は10m程度とする。
 3. 排出した中詰材の積込・運搬が必要な場合は、「第5編第2章土工②土工」により別途計上する。
 4. 撤去した既設土のうを再積立する作業や撤去現場と再積立現場が異なる場合の積込、荷卸、運搬などの必要な費用は別途計上する。
 5. 中詰材排出後の袋材の運搬及び処分費が必要な場合は、別途計上する。
 6. 諸雑費は、カッター等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 7. 足場が必要な場合は、別途計上する。

工事用機械及び車両の走行によって、現場周辺への砂塵等による被害を抑制することを目的に、散水車を用いて防塵処理を行う工法

【施工フロー】



赤字：制定箇所

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

【主な制定概要】

- 現道工事、仮道（切替，工事用含む）等の散水車による防塵処理を行う歩掛を新規制定
- 塩化カルシウム散布等による防塵処理を行う場合は適用外

●機種の設定

機 械 名	規 格
散 水 車	[トラック架装型] タンク容量3,800L

(注) 散水車は賃料とする。

●施工歩掛

【散水作業】

1回・1台当りの散水時間 = $0.6 \times 1/Q \times A$ (h/1回・1台)

Q：時間当り散水量(L/h)

A：散水面積 (m²) = L×W

L：散水1回当りの散水延長 (m)

W：1車線当りの散水幅 (m) (W=3.5mとする。)

【時間当り散水量 (Q)】

$Q = (60 \times q) / cm$

q：散水車のタンク容量 (L)。

なお、3,800Lを標準とする。

cm：1サイクル当り所要時間 (分)

【1サイクル当り所要時間 (cm)】

$cm = (2 \times d) / V + t1 + t2 + t3 + t4$

d：給水場所までの片道距離 (m)

V：走行速度 (m/分) = 267m/分

t1：給水ホース取付け・取外し時間 (分) = 8分

t2：給水時間 (分) = 14分

t3：待機・現場待時間 (分) = 1分

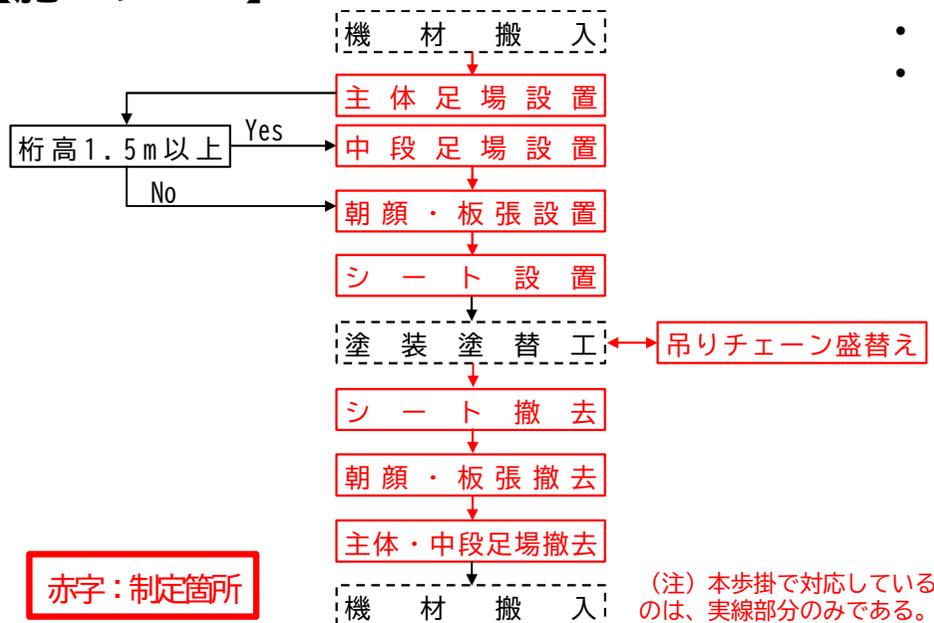
t4：散水時間 (分) = 10分



散水状況

鋼橋塗装の劣化により塗替を行う際に、作業者の足場確保、墜落防止、第三者に対する落下防止を目的とした塗装塗替用足場の設置・撤去工

【施工フロー】



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

【主な制定概要】

- パイプ吊足場およびシステム（パネル式）吊足場の設置・撤去歩掛を新規制定
- システム（パネル式）吊足場とは、親パイプ，ころばしパイプ及び足場板を一体化したパネル式構造

(1) パイプ吊足場（朝顔・板張・シート防護含む）設置・撤去

- 桁高1.5m以上の場合 足場工費 = $(7.49 \times \alpha) + (60.15 \times \beta) X + 0.271 y) \times A$
- 桁高1.5m未満の場合 足場工費 = $(6.69 \times \alpha) + (52.44 \times \beta) X + 0.235 y) \times A$
- α : 主要部材の基本料 β : 主要部材の日当り賃料
- X : 足場を架設している供用月数 A : 足場工の必要橋面積 (m²)
- y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)

名称	規格	運転日数
トラック	クレーン装置付 通称4~4.5t積級 吊能力2.9t	0.032 × A
橋梁点検車	作業高約6m 積載質量200kg	0.012 × A
高所作業車	トラック・伸縮ブーム・プラットフォーム型 最大地上高 12m 最大積載荷重 1,000kg	0.019 × A

(注) 1. A : 足場工の必要橋面積 (m²)
2. 現場条件に応じて、橋梁点検車又は高所作業車のいずれかを選定する。

(2) システム（パネル式）吊足場（朝顔・板張・シート防護含む）設置・撤去

- 桁高1.5m以上の場合 足場工費 = $(2.57 \times \alpha) + (24.29 \times \beta) X + 0.240 y) \times A$
- 桁高1.5m未満の場合 足場工費 = $(2.42 \times \alpha) + (22.82 \times \beta) X + 0.205 y) \times A$
- α : 主要部材の基本料 β : 主要部材の日当り賃料
- X : 足場を架設している供用月数 A : 足場工の必要橋面積 (m²)
- y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)

名称	規格	運転日数
トラック	クレーン装置付 通称4~4.5t積級 吊能力2.9t	0.028 × A

(注) 1. A : 足場工の必要橋面積 (m²)
2. 現場条件に応じて、橋梁点検車又は高所作業車を必要とする場合は、別途計上する。



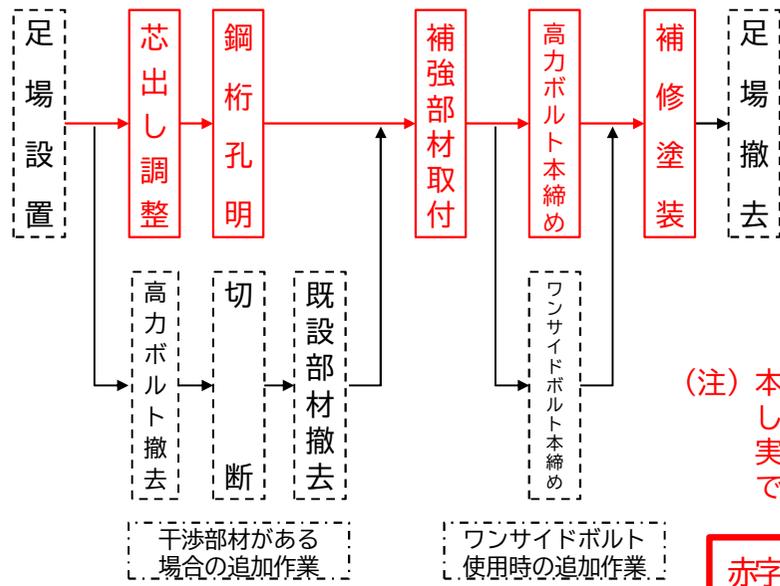
パイプ吊足場設置状況



システム（パネル式）吊足場設置状況

鋼桁の腐食等により断面が欠損した部位の補修・補強のため、補修箇所を鋼板により当て板し、高力ボルトで接合補強する工法

【施工フロー】



【主な制定概要】

・ 高力ボルト当て板鋼桁補強工の一連の作業の歩掛を新規制定

1 芯出し調整工歩掛 (10m2当り)

名称	単位	数量
橋りょう世話役	人	1.2
橋りょう特殊工	人	5.4
普通作業員	人	4.8
諸雑費率	%	3

2 鋼桁孔明工歩掛 (100本当り)

名称	単位	数量	
		400N鋼	490N鋼
橋りょう世話役	人	1.1	1.4
橋りょう特殊工	人	3.4	4.1
普通作業員	人	1.1	1.6
諸雑費率	%	17	15

3 補強部材取付工歩掛 (10部材当り)

名称	単位	1部材当りの平均質量W(kg)	
		W ≤ 20	20 < W ≤ 40
橋りょう世話役	人	0.9	1.3
橋りょう特殊工	人	2.5	3.4
普通作業員	人	0.9	1.2
諸雑費率	%	0.1	0.1

4 高力ボルト本締め工歩掛 (100本当り)

名称	単位	高力ボルト種類	
		トルシア形高力ボルト	高力六角ボルト
橋りょう世話役	人	1.2	1.1
橋りょう特殊工	人	3.3	2.9
普通作業員	人	1.1	0.9
諸雑費率	%	3	2

5-1 補修塗装工（素地調整）歩掛 (10m2当り)

名称	単位	数量
橋りょう塗装工	人	6.8
諸雑費率	%	5

5-2 補修塗装工（下・中・上塗り）歩掛 (10m2・1層当り)

名称	単位	数量
橋りょう塗装工	人	0.89
諸雑費率	%	19



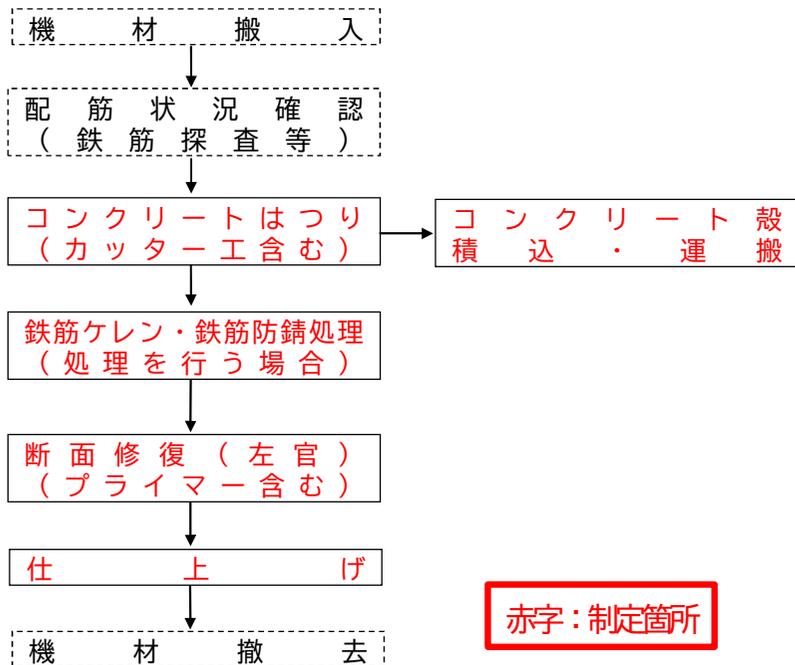
補修前（桁腐食状況）



補修完了

トンネル覆工コンクリートの劣化により欠落した部分等のコンクリートをはつり取った後、断面修復材料を塗り付け、仕上げる工法

【施工フロー】



赤字：制定箇所



施工全景



断面修復 (左官) 施工状況

【主な制定概要】

- 高所作業車を用いたトンネル覆工コンクリートの左官工法による断面修復作業の歩掛を新規制定
- シェッドや大型カルバート等にも適用

●機種の選定

名称	規格	単位	数量	摘要
高所作業車	[トラック架装・伸縮ブーム・プラットフォーム型] 最大地上高9.9m・最大積載荷重1,000kg	台	1	

●施工歩掛

断面修復工 (左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)
[1トンネル当り修復延べ体積0.1m3以下]の場合

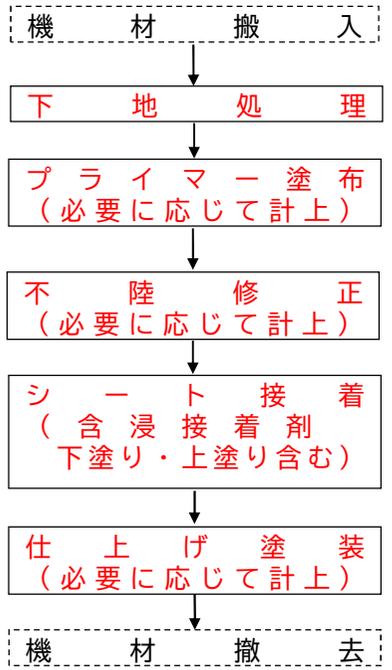
名称	単位	数量(n1) (1トンネル当り)
土木一般世話役	人	3.8
特殊作業員	//	6.0
普通作業員	//	4.0
高所作業車運転	日	3.8

断面修復工 (左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)
[1トンネル当り修復延べ体積0.1m3を超える]の場合

名称	単位	数量(n2) (0.1m3当り)
土木一般世話役	人	3.8
特殊作業員	//	6.0
普通作業員	//	4.0
高所作業車運転	日	3.8

トンネル覆工コンクリートの劣化箇所を、劣化進行状況の確認が可能である可視繊維シート接着工で補修を行う工法

【施工フロー】



赤字：制定箇所



施工全景



シート接着 施工状況

【主な制定概要】

- 高所作業車を用いたトンネルの剥落防止対策を目的とする可視繊維シート接着の歩掛を新規制定
- シェッドや大型カルバート等にも適用

●下地処理 (10m2当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.23
特殊作業員	〃	0.37
普通作業員	〃	0.30
高所作業車運転	日	0.23
諸雑费率	%	30

●プライマー塗布 (10m2当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.18
特殊作業員	〃	0.29
普通作業員	〃	0.23
高所作業車運転	日	0.18
諸雑费率	%	0.9

●不陸修正 (10m2当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.26
特殊作業員	〃	0.41
普通作業員	〃	0.33
高所作業車運転	日	0.26
諸雑费率	%	7

●シート接着 (含浸接着剤下塗り・上塗り含む) (10m2当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.57
特殊作業員	〃	0.90
普通作業員	〃	0.73
高所作業車運転	日	0.57
諸雑费率	%	0.4

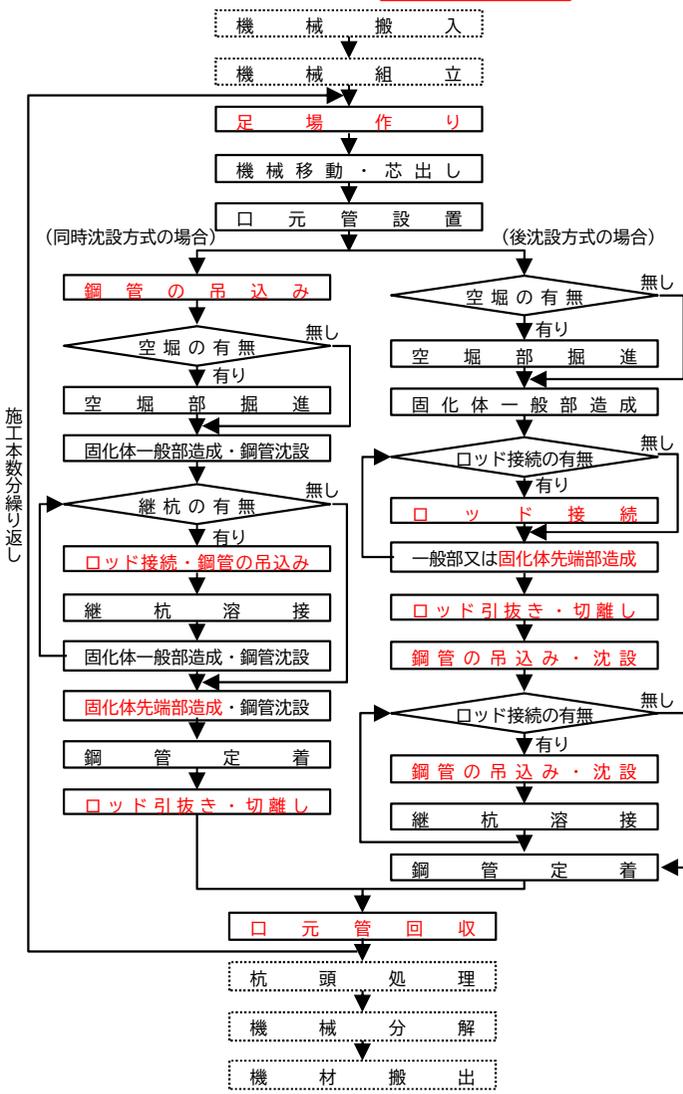
●仕上げ塗装 (10m2当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.18
特殊作業員	〃	0.29
普通作業員	〃	0.23
高所作業車運転	日	0.18
諸雑费率	%	0.9

原地盤中にセメントミルクを注入し、攪拌混合して造成した固化体（ソイルセメント柱）に外面突起付鋼管を沈設し、両者を一体化させる杭工法。鋼管の沈設方式には、ソイルセメント柱を造成しながら沈設する「同時沈設方式」と、造成後に沈設する「後沈設方式」がある。

【施工フロー】

赤字：改定箇所



固化体一般部造成・鋼管沈設（同時沈設方式）

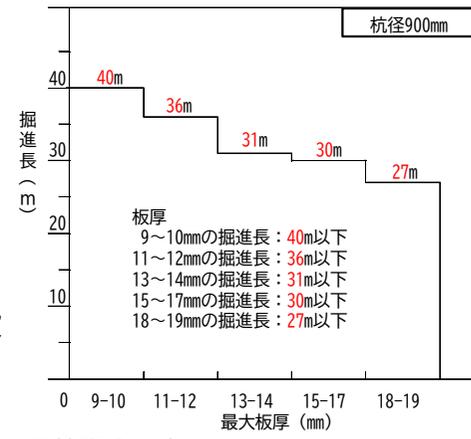


鋼管の吊込み・沈設（後沈設方式）

【主な改定概要】

- 適用範囲（掘進長）の見直し
- 継杭溶接時間の計上方法及び先端部掘進速度の見直し
- 施工機械の規格を見直し

●適用範囲（杭径900mm）



●先端部（Vg3）の掘進速度（m/min）

杭径 (mm)	加重平均N値	
	N < 40	40 ≤ N < 80
900 ~ 1,300	0.11	0.10
1,400 ~ 1,500	0.09	

●杭1本当りの継杭溶接時間

杭1本当り継杭溶接時間は、次式による。なお、継杭溶接1箇所目は、準備及び固化体造成時間内に溶接作業を行うため、準備及び固化体造成時間を超過した時間を計上する。

$$T_w = t_{wa} + \sum t_{wi}$$

T_w ：杭1本当りの継杭溶接時間（min/本）
 t_{wa} ：1箇所目の継杭1箇所当りの溶接加算時間
 t_{wi} ：1箇所目を除き2箇所目以降の継杭1箇所当りの溶接時間

●機種を選定

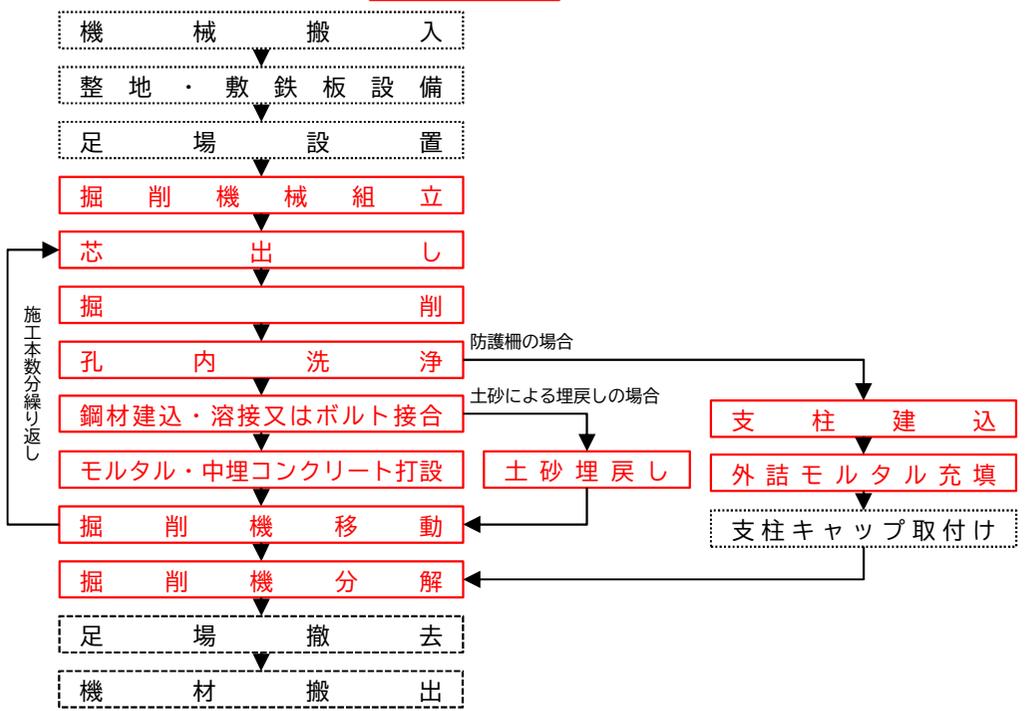
機械名	規格	単位	数量	継杭の有無		摘要
				無し	有り	
クローラ式杭打機	鋼管ソイルセメント杭打機・杭径900~1,500mm・最大施工深度 70m・オーガ出力 110~180kW	台	1	○	○	
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動・排出ガス規制対象外・定格容量550/600kVA	〃	1	○	○	オーガ用
クレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）最大吊上能力70t吊	〃	1	○		
バックホウ（クローラ型）	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）最大吊上能力90t吊	〃	1		○	
スラリプラント（全自動）	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）バケット容量0.5m ³	〃	1	○	○	
スラリプラント（全自動）	プラント練能力40m ³ /h	〃	1	○	○	

令和8年度 改定工種概要 場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）

クレーン又は大口径ボーリングマシンに取付けたダウンザホールハンマの打撃により地盤（岩盤等）を掘削し、鋼管又はH形鋼を建込み、中詰材・外詰材の注入等の一連作業で杭を形成する工法。比較的安定した地盤で、孔壁保護を行わずに施工する場合に使用される。

【施工フロー】

赤字：改定箇所



【主な改定概要】

- 設計杭径に対する削孔径の一部見直し
- 施工機械の規格を見直し
- 諸雑費率の見直し及びビット等損耗費率の設定

●設計杭径及び削孔径

項目	設計杭径 (mm)	170以上 220以下	220超え 270以下	270超え 320以下	320超え 360以下	360超え 430以下	430超え 510以下	510超え 580以下
		削孔径 (mm)	H形鋼	300	350	400	450	500
		鋼管・防護柵	300	350	400	450	500	550
H形鋼	設計杭径は、H形鋼の対角線長とする。							
鋼管	設計杭径は、鋼管の外径とする。							
防護柵	設計杭径は、回転防止筋を含む外径とする。							

●機種の選定(A工法)

作業種別	機械名	規格	単位	設計杭径	
				430mm以下	430mm超え
掘削用	ラフテレーンクレーン 装着式アースオーガ	アースオーガ（油圧式）及びモンケン架装 ベースマシン35t吊	台	1	-
掘削用	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス 対策型（2014年規制）最大吊上能力70t吊	〃	-	1
	ダウンザホールハンマ	最大掘削径 φ305mm、φ445mm、φ508mm、φ650mm	〃	表3.4による	
	空気圧縮機	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型（超低騒 音型）・排出ガス対策型（第3次基準値）吐出 量21～25.5 m3/min, 37～41 m3/min	〃	表3.5による	
鋼管杭・H形杭 等建込用、掘削 機組立・分解用	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（2014年規制） 最大吊上能力25t吊	〃	1	



掘削状況

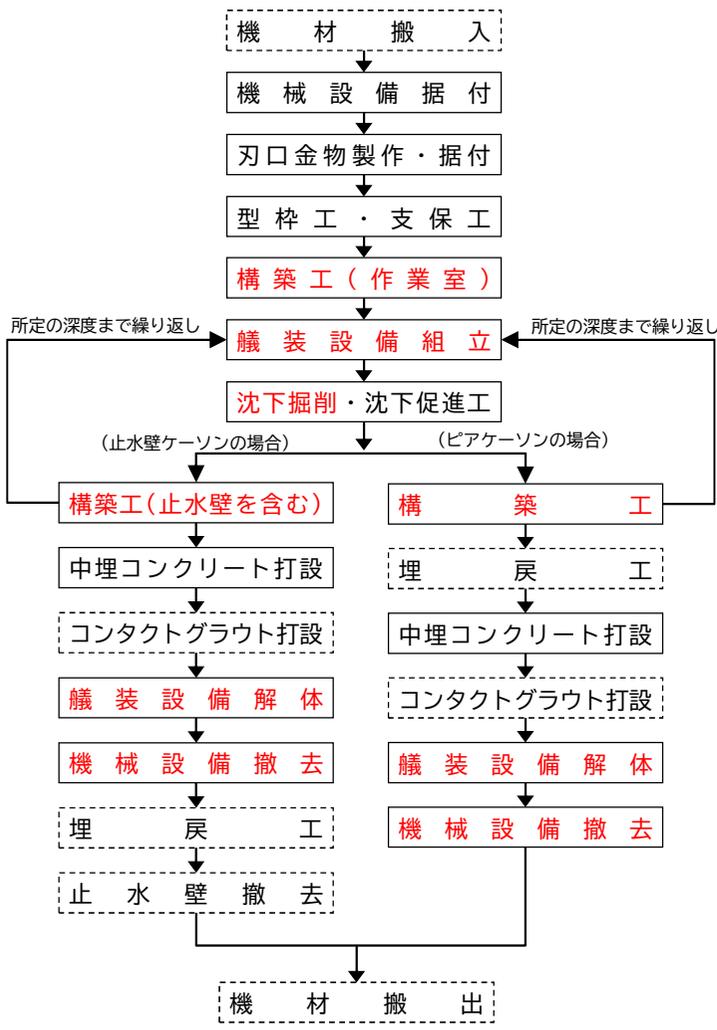


鋼管建込状況

令和8年度 改定工種概要 ニューマチックケーソン工

ケーソンを構築し底部に作業室を設けて、送気設備より地下水に対抗する圧力の空気を送り、ドライに近い状態の作業室内で、天井走行式ショベルを作業員が搭乗または遠隔操作により土砂を掘削、排出してケーソンを所定の支持地盤まで沈下させる工法

【施工フロー】



羽口金物製作・据付



艀装設備組立



沈下掘削
(無人掘削)

赤字：改定箇所

【主な改定概要】

- 無人掘削の歩掛を新規設定
- 施工機械の規格の見直し
- 送気用設備の運転歩掛及び保守歩掛の設定
- 設備等の供用日数の見直し

●機種種の選定 (ケーソン1基当り)

種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
掘削設備	天井走行ショベル	バケット容量0.15m3	台	1	40m2以上100m2未満
				2	100m2以上300m2未満
	天井走行式ショベル (遠隔操縦式)	[中大断面用] バケット容量0.15m3	"	1	40m2以上100m2未満
				2	100m2以上300m2未満
	遠隔操作用設備	[中大断面用] 遠隔制御盤及び操作機器	"	1	40m2以上100m2未満
				2	100m2以上300m2未満
走行レール	長さ2m×1本	式	1	必要数量	

種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
共通設備	クローラークレーン	[油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型(2014年規制)] 最大吊上能力70t吊	台	1	掘削排土、艀装設備組立解体、仮設備組立解体、足場設置撤去で使用

●送気用設備

送気用設備編成人員	(人/現場)
特殊作業員	1

送気用設備保守点検歩掛	(運転1日当り)
電 工	0.3

送気用設備の運転の諸雑費は、送気用設備監視機器(空気圧縮機・クーリングタワー異常温度警報装置、送気本管・函内圧力警報装置及び水位観測用カメラ・モニタ類)の費用等であり、労務費(送気用設備の運転および保守点検作業)の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

送気用設備諸雑費率	(%)
諸 雑 費 率	3

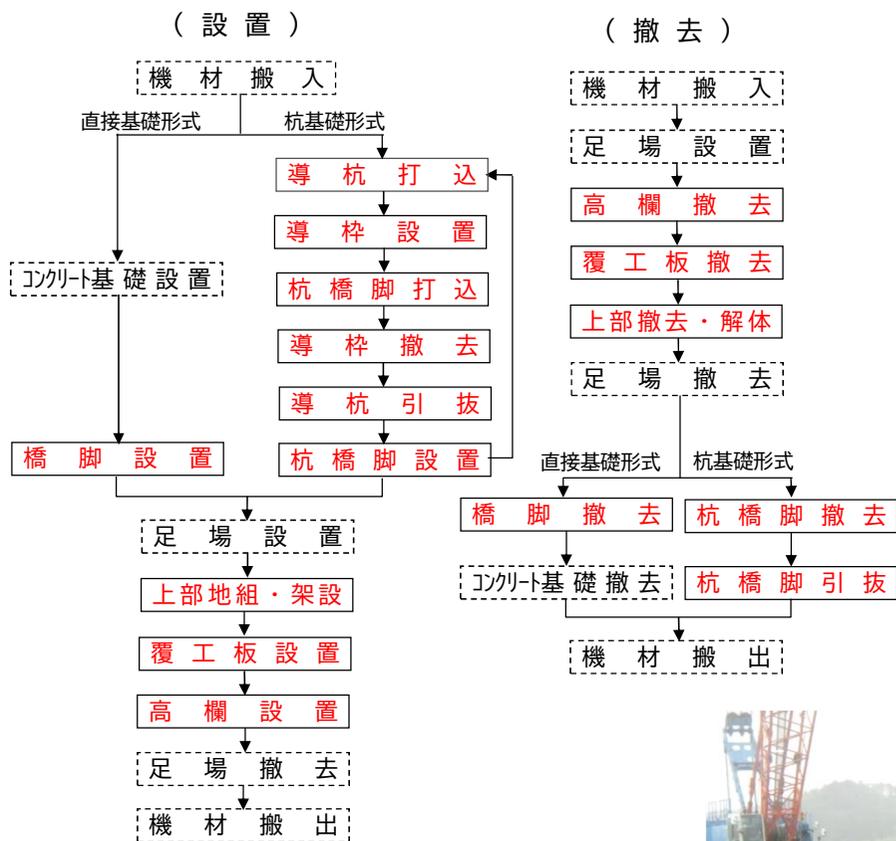
●供用日数

設 備 等	供 用 日 数	摘 要
共 通 設 備	(A+B+C+E) × 1.54	
排 土 設 備	(A+B+E) × 1.54	
掘 削 設 備	(A+B+E) × 1.54	
遠隔操作用設備	(A+B+E') × 1.54	
艀 装 設 備	(A+B+C+E) × 1.54	
外 側 足 場	(A+B) × 1.54	
内 側 足 場	(A+B) × 1.54	
安 全 設 備	(A+B+C+E) × 1.54	ケーソンが2基
送 気 設 備	(A+B+C+D+E) × 1.54	以上の場合は、
救 急 設 備	(A+B+C+E) × 1.54	重複する分を
予 備 設 備	(A+B+C+E) × 1.54	減ずること

- A：ケーソン構築日数 (艀装日数含む)
- B：掘削沈下日数
- C：中埋コンクリート打設・養生日数 (支持力テスト含む)
- D：定置式空気圧縮機組立・解体日数
- E：天井走行式ショベル組立・解体日数
- E'：遠隔操作用設備組立・解体日数

仮橋は、橋梁架替工事に伴う迂回路のための橋、工事用車両等の通行のための橋、災害時の応急的な橋等、一時的な使用を目的としたもの。仮栈橋は、水上施工等の際に工事用機械や材料等の運搬を行うために設ける橋や工事用作業足場として利用するもの。

【施工フロー】



【主な改定概要】

- ・主桁構造（H形鋼主桁、仮設鋸桁）別に架設撤去歩掛を見直し
- ・覆工板及び高欄設置撤去歩掛を見直し
- ・杭橋脚打込みについて、継施工に対応した日当り施工本数に見直し
- ・導枠設置撤去歩掛を見直し

●施工歩掛（架設・撤去工）

名称	規格	単位	数量 (10t当り)				摘要
			H形鋼主桁		仮設鋸桁		
			架設	撤去	架設	撤去	
橋りょう世話役		人	0.63	0.36	0.81	0.46	
橋りょう特殊工		〃	2.4	1.4	2.7	1.6	
溶接工		〃	-	0.06	-	0.07	
普通作業員		〃	0.52	0.41	0.60	0.47	
ラフテレーンクレーン又はクローラクレーン運転	最大吊上能力 〇〇t吊	日	0.77	0.57	1.0	0.74	
諸雑費率		%	5	5	8	9	

赤字：改定箇所



上部工（H形鋼主桁）架設状況



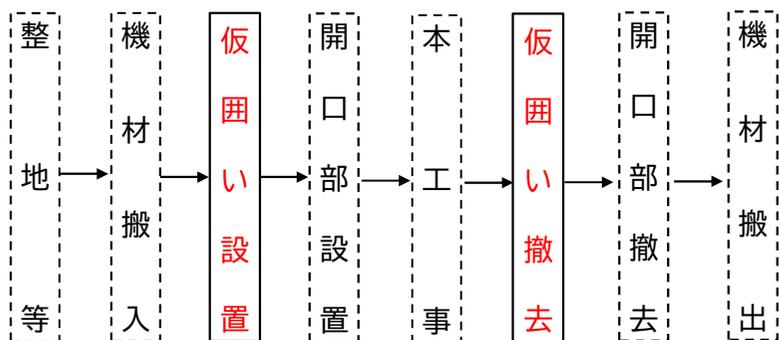
上部工（仮設鋸桁）地組状況



上部工（仮設鋸桁）架設状況

騒音、粉塵、災害等の防止のため、また作業現場の保安等の理由から外部と遮断するために、「仮囲い」を設置・撤去する工法

【施工フロー】



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

赤字：改定箇所

【主な改定概要】

- ・ 人力施工から機械施工への変動等に伴う編成人員、歩掛の見直し
- ・ 歩掛改定に伴う諸雑費率の見直し
- ・ 仮囲い仮設材の賃料計上方法の見直し

●日当り編成人員

名称	設置	撤去
土木一般世話役	1	1
特殊作業員	2	-
普通作業員	2	4

●日当り施工量

(m/日)

施工区分	単位	設置	撤去
日当り施工量	m	37	40

●諸雑費

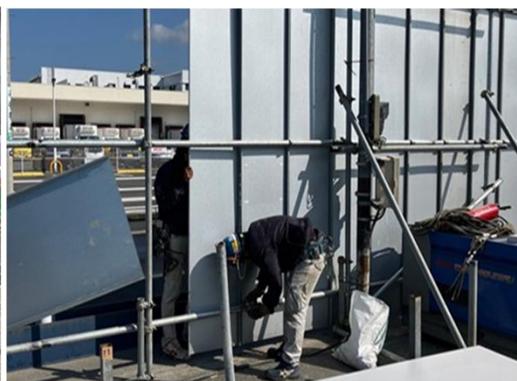
諸雑費は、設置における油圧杭打機、油圧パワーユニット、撤去における杭抜き工具、設置及び撤去におけるハンマ、ラチェットレンチ、脚立、フックボルト等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(%)

作業区分	設置	撤去
仮囲い	20	14



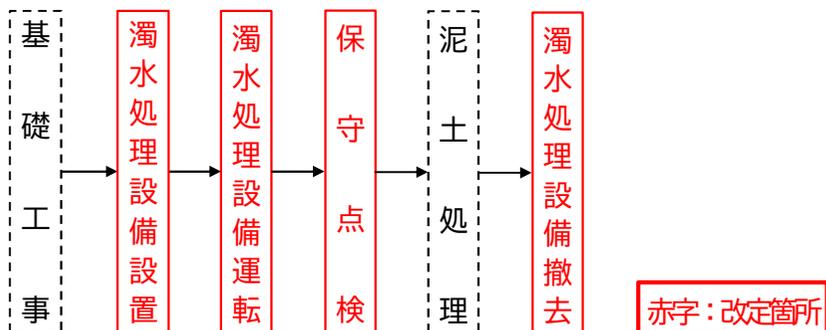
丸パイプ土中打込作業状況



仮囲い設置状況

一般土木工事で発生する濁水について、水質汚濁防止法及び都道府県条例で規定された水質基準値以下になるまでにより処理する濁水処理設備の設置・撤去及び保守管理を行う。

【施工フロー】



●処理方法の選定

処理方法は、常時処理と作業時処理とする。

- (1) 常時処理とは、昼夜連続的に濁水処理する方法をいう。湧水が常時発生する現場及びコンクリート養生水等の発生や、降雨により常時濁水の流入・流出が想定される現場における処理を指し、濁水の稼働時間は24時間を標準とする。
- (2) 作業時処理とは、作業前から濁水処理し始めて、作業終了後には濁水処理を中止する方法をいう。降雨による濁水の流入や流出が想定されていない現場で特定の工種・作業における処理方法を指し、濁水処理設備の稼働時間は8時間を標準とする。



濁水処理設備外観



保守点検状況

【主な改定概要】

- 処理能力の適用範囲を見直し
- 施工機械の性能向上（小型化）による歩掛見直し
- 常時処理（24時間運転）と作業時処理（8時間運転）の設定

●適用範囲（濁水処理設備）

濁水処理設備は機械処理沈殿方式とし、濁水処理設備能力30～60m³/hに適用する。

濁水処理設備には原水槽、炭酸ガス中和処理装置（凝集沈殿前）、無機凝集剤注入設備、高分子凝集剤注入設備、凝集攪拌設備、シックナ（処理槽）、監視装置（自動測定記録装置）、スラリ槽および、それらに関連する配線・配管を含むものとする。

なお、排出水に含まれる浮遊物質量（SS）の日間平均が50mg/L程度となる能力を有する濁水処理設備を想定している。

ただし、高濃度の有機性排水や土壌由来の有機物を非常に多く含む場合等、上記の処理設備では対応が困難で、前処理設備（原水槽の前に設ける沈殿池等）、酸液中和処理装置（凝集沈殿前）、中和処理装置（凝集沈殿後）、油除去設備、重金属処理装置、ろ過設備、生態試験設備が必要となる場合は、別途考慮する。

●施工歩掛（濁水処理設備設置・撤去）

名称	規格	単位	30～60m ³ /h	
			設置	撤去
土木一般世話役		人	2.4	1.3
電工		〃	2.9	0.9
設備機械工		〃	6.2	3.9
普通作業員		〃	4.0	1.3
ラフレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2014年規制） 最大吊上能力25t吊	日	0.7	0.6

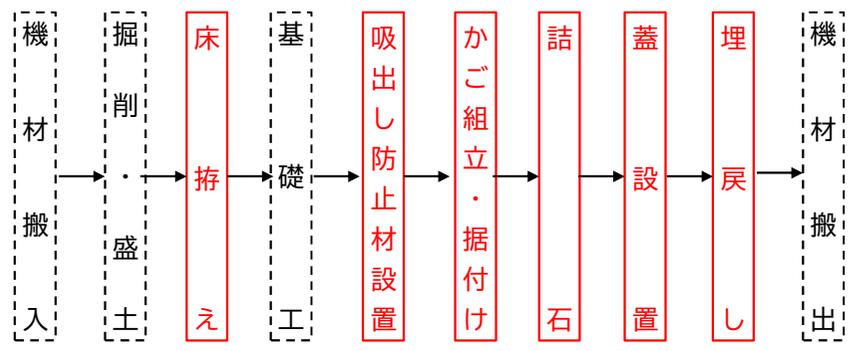
●施工歩掛（濁水処理設備保守点検）

（1回当り）

名称	単位	数量
設備機械工	人	0.27
普通作業員	〃	0.32

地すべり防止施設及び急傾斜崩落対策施設においてふとんかごを製作し設置する工法

【施工フロー】



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

赤字：改定箇所

【主な改定概要】

- ・ 使用機械の見直し
- ・ 準備、後片付け、移動時間等を考慮した歩掛に見直し

●ふとんかご施工歩掛

(10m当り)

名称	規格	単位	ふとんかご規格 (cm)						摘要
			高さ40 幅120	高さ50 幅120	高さ50 幅200	高さ60 幅120	高さ100 幅120	高さ100 幅200	
土木一般世話役		人	0.7	0.8	1.2	0.9	1.4	2.6	
特殊作業員		〃	0.7	0.9	1.4	1.0	1.7	2.9	
普通作業員		〃	1.9	2.3	3.9	2.8	4.6	7.8	
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量0.5m ³	日	0.4	0.6	0.9	0.7	1.1	1.8	賃料
不整地運搬車 運転	クローラ型・ダンプ式 排出ガス対策型(第3次基準値) 通称2t積	〃	0.3	0.4	0.7	0.6	0.8	1.4	賃料

※ 不整地運搬車運転は、必要に応じて計上



床拵え



吸出し防止材設置



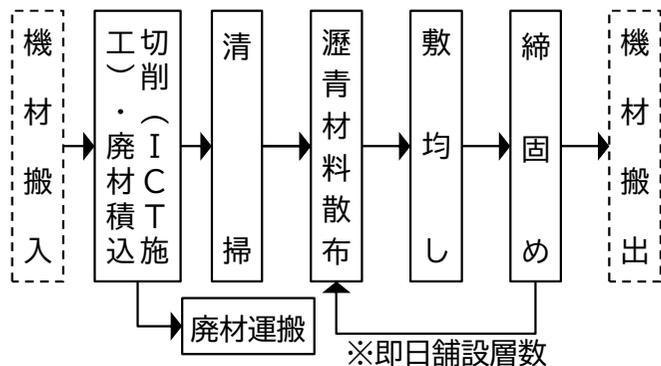
かが組立・据付け



蓋設置

ICT建設機械の路面切削機による、アスファルト舗装路面の切削作業（複数の路面切削機による並列切削作業を除く）から舗装までを即日急速施工する工法

【施工フロー】



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

【主な改定概要】

- 適用範囲の見直し
交差点部を小規模に分割し施工する場合は適用範囲外
排水性舗装の切削作業を適用範囲に追加
- 使用機械の施工実態を反映した機械損料数量の見直し

●適用範囲

本資料は、路面切削機 (ICT機械) によるアスファルト舗装路面の切削作業から概ね切削した舗装厚分を即日で急速施工する作業に適用する。ただし、交差点内の施工を含みかつ従道路側の交通規制を伴う交差点部の施工に際し、交差点部を小規模に分割し施工する場合は、当該交差点部分のみ別途考慮する。

1-1 適用できる範囲

- アスファルト混合物が購入方式の場合
- 施工箇所が車道・路肩の場合
- 切削作業がストレートアスファルト、改質アスファルトの場合
- 切削作業の対象が排水性舗装（ポラスアスファルト、開粒度アスファルト）で、既設導水パイプの撤去を含まない場合

●機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用 単価表	指 定 事 項			
			7cm以下 一層舗設	7cmを超え12cm以下 一層舗設	二層舗設	
路面切削機 (ICT)	ホイール式・廃材積込装置付・ 排出ガス対策型(2014年規制) 切削幅2.0m×深さ0.23m 【切削管理システム】ICT施工用	機-33	運転労務数量	1.00	1.00	1.00
			燃料消費量	184	206	177
			機械損料数量	1.42	1.42	1.42
ICT建設機械経費損料加算額			機械損料数量	1.42	1.42	1.42
路面清掃車	ブラシ・四輪式・ 路面切削工事用 ホッパ収集容量1.5m3	機-19	運転労務数量	1.00	1.00	1.00
			燃料消費量	35	39	34
			機械損料数量	1.28	1.28	1.28
アスファルト フィニッシャ	ホイール型 排出ガス対策型(2014年規制) 舗装幅2.3~6.0m	機-18	運転労務数量	1.00	1.00	1.00
			燃料消費量	60	68	67
			機械損料数量	1.42	1.42	1.42
ロードローラ	マカダム・超低騒音型・ 排出ガス対策型(2014年規制) 運転質量10t	機-18	運転労務数量	1.00	1.00	1.00
			燃料消費量	30	34	33
			機械損料数量	1.42	1.42	1.42
タイヤローラ	普通型・超低騒音型・ 排出ガス対策型(2014年規制) 運転質量13~14t	機-18	運転労務数量	1.00	1.00	1.00
			燃料消費量	23	26	26
			機械損料数量	1.42	1.56	1.42



路面切削機 (ICT)による切削



路面清掃車による清掃



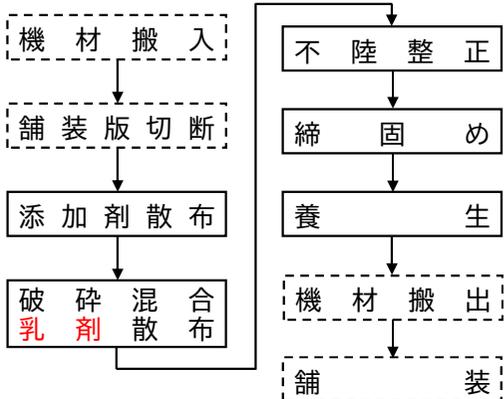
アスファルトフィニッシャによる敷均し



ロードローラ・タイヤローラによる締固め

路上において既設アスファルト舗装版を現位置にて破碎し、同時にセメントやアスファルト乳剤等の路上路盤再生用添加材料及び既設粒状路盤材料等と混合し締め固めることで、安定処理した路盤を新たに構築する工法

【施工フロー】



- (注)
1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. 破碎混合時の水散布の有無によらず適用出来る。
 3. 養生工は必要に応じて計上する。
 4. 事前の路面切削が必要な場合は、「第2編第13章道路維持修繕 路面切削工」により別途計上する。
 5. 事前の予備破碎、予備破碎後の殻運搬、処分が必要な場合は、別途計上する。

赤字：改定箇所



バックホウによる添加剤散布



スタビライザによる破碎混合・乳剤散布



モータグレーダによる不陸修正



ロードローラ・タイヤローラによる締め固め

【主な改定概要】

- 添加剤散布作業を人力施工から機械施工（バックホウ施工）へ見直しによる編成人員、歩掛の見直し
- 移動時間等や熱中症予防対策などによる作業休止の施工実態を反映した日当り施工量の見直し

●編成人員

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	3

●機種の種類

作業種別	機械名	規格	単位	数量	
添加剤散布	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量0.28m ³ 吊能力1.7t	台	1	
破碎混合	スタビライザ (路盤再生用)	路盤再生用・排出ガス対策型(第3次基準値) 混合幅2.0m×混合深さ0.4m	〃	1	
不陸修正	モータグレーダ	土工用・排出ガス対策型(2014年規制) ブレード幅3.1m	〃	1	
締め固め	混合深さ 0.2m以下	ロードローラ	マカダム・排出ガス対策型(2014年規制)・超低騒音型 運転質量10t	〃	1
	混合深さ 0.2mを超え 0.4m以下	タイヤローラ	普通型・排出ガス対策型(2014年規制)・超低騒音型 運転質量13~14t	〃	1
締め固め	混合深さ 0.2mを超え 0.4m以下	振動ローラ (舗装用)	搭乗・タンデム式・排出ガス対策型(2014年規制) 運転質量6~7.5t	〃	1
	混合深さ 0.2mを超え 0.4m以下	タイヤローラ	普通型・排出ガス対策型(2014年規制)・超低騒音型 運転質量13~14t	〃	1

●日当り施工量

(m²/日)

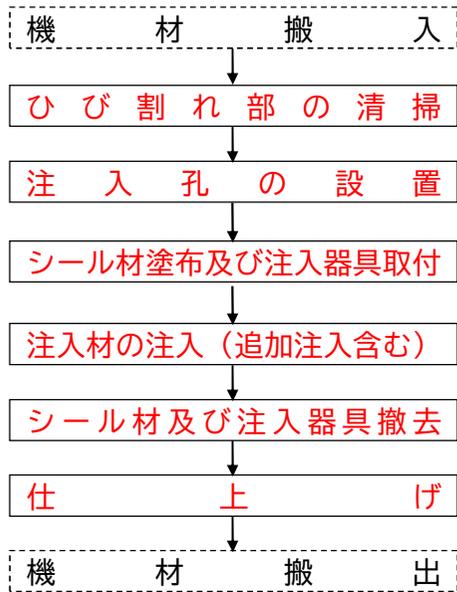
路上路盤再生工	700(752)
---------	----------

- (注)
1. 上表は、混合深さ0.4m以下の場合に適用する。
 2. 混合回数は、1回を標準とする。
 3. 添加剤は、セメント系(セメントを含む)を標準とする。
 4. 混合用乳剤を必要により添加する場合は、材料費のみ計上する。
 5. 上表は、添加剤散布、破碎混合(乳剤散布を含む)、不陸修正、締め固め、養生工を全て含んだ標準施工量である。なお、養生工を必要としない場合は、()内を使用する。

トンネル覆工コンクリートの劣化により、ひび割れした部分に樹脂系またはセメント系の材料を注入して補修する工法

【施工フロー】

赤字：改定箇所



【主な改定概要】

- ・ 準備後片付け、移動時間等の施工実態を反映した労務歩掛に見直し
- ・ 小規模な現場の施工効率を考慮した歩掛へ見直し

●機種の設定

名称	規格	単位	数量	摘要
高所作業車	[トラック架装・伸縮ブーム・プラットフォーム型] 最大地上高9.9m・最大積載荷重1,000kg	台	1	

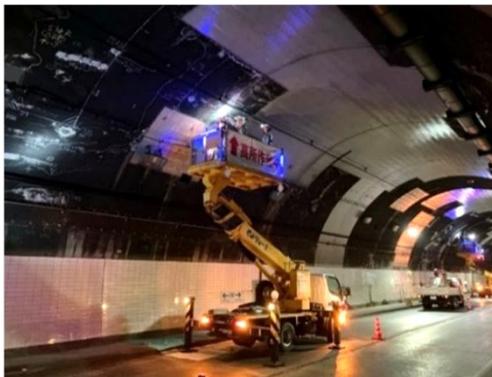
●施工歩掛（ひび割れ補修工（低圧注入工法））

[1トンネル当り補修延べ延長 25m以下の場合]

名称	単位	数量 (n1) (1トンネル当り)
土木一般世話役	人	2.5
特殊作業員	"	2.8
普通作業員	"	3.5
高所作業車	日	3.5

[1トンネル当り補修延べ延長 25mを超える場合]

名称	単位	数量 (n2) (10m当り)
土木一般世話役	人	1
特殊作業員	"	1.1
普通作業員	"	1.4
高所作業車	日	1.4



施工全景



シール材塗布



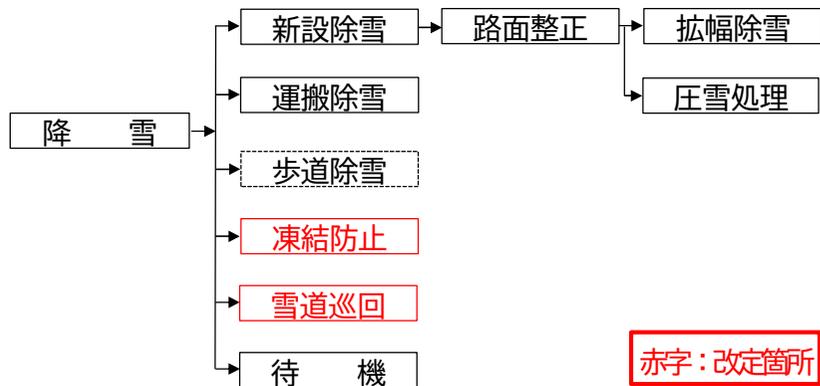
注入器具取付



仕上げ

道路除雪工は、安全で円滑な冬期道路交通の確保を図り、通行止めやスタック車両が生じないように、新設除雪、拡幅除雪、運搬除雪、歩道除雪、凍結防止剤散布等を行うものである。

【施工フロー】



赤字：改定箇所

【主な改定概要】

- 機械の使用実態を踏まえた標準機種の見直し及び規格名称の変更
- 凍結防止剤散布車助手の作業内容として、薬剤の積み込み作業を明記し、設計図書に必要な資格を定めた場合は、適切な職種を計上するよう見直し
- 施工形態の変化に伴う除雪作業世話役の労務歩掛の見直し
- 雪道巡回時間の増加傾向を踏まえた巡回時間の見直し

●運転労務

・助手

除雪作業中の安全管理のため運転手とともに除雪機械に同乗する作業、及び整備点検・給油脂・清掃作業・凍結防止剤散布車への袋詰薬剤の積み込み（開封・積込・清掃）等を行う。また、気象条件（降雪量等）変化に備える待機作業を行う。

・除雪作業世話役

除雪作業世話役の労務歩掛は、運転手の1/2を計上する。

●雪道巡回工

巡回1回当り巡回時間 (Tr)

機械名	1回当り巡回距離				
	10km以下	25km以下	45km以下	60km以下	75km以下
ライトバン	0.6	1.0	1.4	1.7	2.1
	2.5	3.2	4.0	4.8	—
	—	—	—	—	—
凍結防止剤散布車	0.6	1.0	1.4	1.9	2.3
	2.8	3.2	4.1	5.0	—
	—	—	—	—	—

使用する機種の標準（例）

表3.1 機種の選定

工種	作業条件	機種	規格
新設除雪	標準	除雪グレーダ 排出ガス対策型 (第○次基準、20○○年規制)	ブレード幅 3.7m, 4.0m, 4.3m級
		除雪トラック	通称7t級、通称10t級
	幅員の狭い場合 又は積雪量の 少ない場合	除雪グレーダ 排出ガス対策型 (第○次基準、20○○年規制)	ブレード幅 3.7m, 4.0m級
		除雪トラック	通称7t級、通称10t級



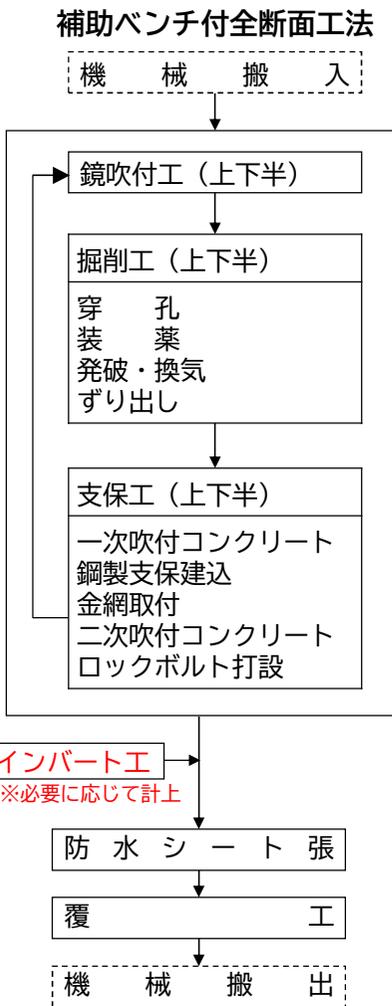
一般除雪（拡幅除雪）状況



凍結防止剤散布状況

山岳トンネルの標準的な施工法で、火薬による発破で掘削する。掘削直後に吹付コンクリート、ロックボルト等を施工し、地山と一体化した支保構造を作ることによって、地山が本来持っている支保能力を積極的に利用する工法

【施工フロー】



穿孔・装薬



コンクリート吹付



鋼製支保工建込



スライドセントル移動・据付

【主な改定概要】

- ・ 労務歩掛、機械歩掛の見直し（掘削工、支保工、インバート工、覆工工、工事用仮設備等）
- ・ 坑内排水設備、坑内換気設備や集塵機等の移設作業時間を施工歩掛に反映
- ・ 使用機械規格の見直し（セメントサイロの大型化）
- ・ 使用材料の見直し：吹付コンクリート用急結剤の変更（粉体→液体混合）
- ・ スライドセントルや防水作業台車損料算定式の見直し
- ・ 補助工法の対策区間、箱抜き部の施工、避難連絡坑の施工など、標準歩掛の適用範囲外の明確化

●施工歩掛(掘削等)「通常断面」

(人/(トンネル延長)1m当り)

岩区分	職 種	設計掘削断面積 (m2)									
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95
C I	切羽監視責任者	0.42	0.44	0.45	0.47	0.49	0.50	0.52	0.54	0.56	0.57
	トンネル世話役	0.42	0.44	0.45	0.47	0.49	0.50	0.52	0.54	0.56	0.57
	トンネル特殊工	2.52	2.64	2.70	2.82	2.94	3.00	3.12	3.24	3.36	3.42
	トンネル作業員	0.42	0.44	0.45	0.47	0.49	0.50	0.52	0.54	0.56	0.57

●コンクリート吹付機「通常断面」

規格：トンネル工専用【湿式吹付・吹付口ロボット一体・エアコンプレッサ搭載・エレクトラ型・排出ガス対策型（第3次基準値）】

吐出量6~22m3/h 吹付半径7m

(週/(トンネル延長)1m当り)

岩区分	設計掘削断面積 (m2)									
	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95
C I	0.031	0.033	0.034	0.035	0.036	0.038	0.039	0.040	0.041	0.043
C II	設計掘削断面積 (m2)									
	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95
	0.052	0.053	0.055	0.056	0.057	0.058	0.060	0.061	0.062	0.063

●スライドセントル等損料

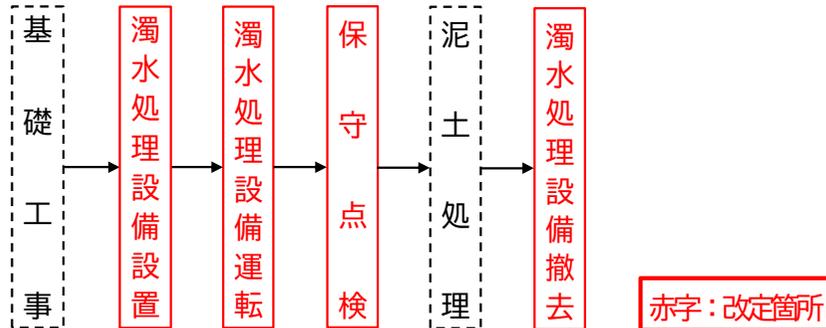
スライドセントル（本坑用）は、スチールフォーム【単心円、三心円（上半単心）、五心円（上半三心）】のL=10.5mを標準とし、損料は以下の式により算出する。スライドセントル（本坑用）損料対象長（m）で除して、m当り単価を計上する。

$$P_1 = 5,146,000 \times A + 45,531,000$$

ただし、 P_1 ：スライドセントル（本坑用 L=10.5m）損料（円/基） A：上半周長（m）

トンネル工で発生する濁水について、水質汚濁防止法及び都道府県条例で規定された水質基準値以下になるまで処理する濁水処理設備の設置・撤去及び保守管理を行う。

【施工フロー】



【主な改定概要】

- 準備、後片付け等を考慮した歩掛に見直し
- 施工機械の見直しにより、加圧脱水機（フィルタプレス式）の運転時間を設定

●適用範囲（濁水処理設備）

機械処理脱水方式とし、濁水処理設備能力30・60m³/hに適用する。

濁水処理設備には原水槽、炭酸ガス中和処理装置（凝集沈殿前）、無機凝集剤注入設備、高分子凝集剤注入設備、凝集攪拌設備、シックナ（処理槽）、監視装置（自動測定記録装置）、スラリー槽および、それらに関連する配線・配管を含むものとする。

なお、排出水に含まれる浮遊物質量（SS）の日間平均が50mg/L程度となる能力を有する濁水処理設備を想定している。

ただし、高濃度の有機性排水や土壌由来の有機物を非常に多く含む場合等、上記の処理設備では対応が困難で、前処理設備（原水槽の前に設ける沈殿池等）、酸液中和処理装置（凝集沈殿前）、中和処理装置（凝集沈殿後）、油除去設備、重金属処理装置、ろ過設備、生態試験設備が必要となる場合は、別途考慮する。



濁水処理設備設置状況



濁水処理設備外観



発生土積込状況



保守点検状況

●施工歩掛（濁水処理設備設置・撤去）

（1箇所当り）

名称	規格	単位	30～60m ³ /h	
			設置	撤去
土木一般世話役		人	4.3	3.4
電工		〃	4.3	1.4
設備機械工		〃	9.6	4.4
普通作業員		〃	5.5	3.6
ラフテーシオン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2014年規制） 最大吊上能力25t吊	日	2.6	1.3

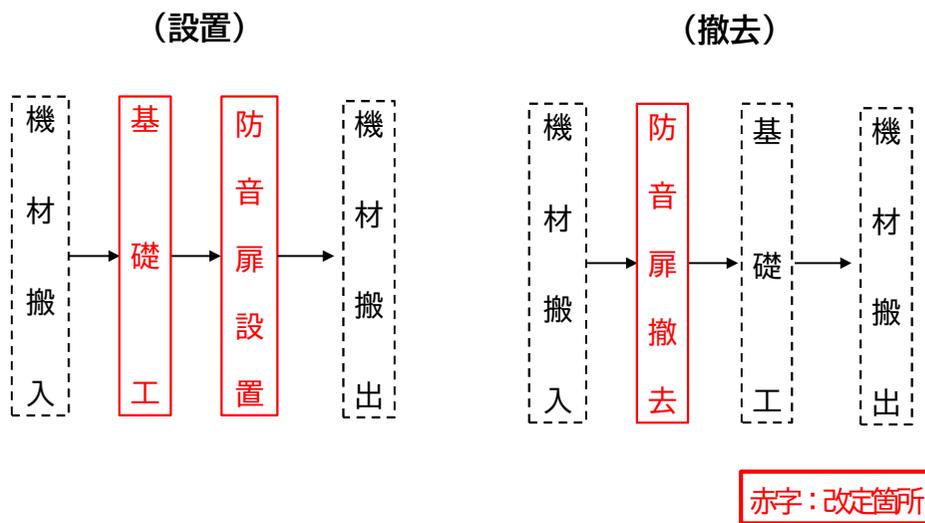
●施工歩掛（濁水処理設備保守点検）

（1回当り）

名称	単位	数量
設備機械工	人	0.4
普通作業員	〃	0.64

トンネル工事（発破工法等）の施工において、周辺集落への騒音等の影響を軽減するため、トンネルの坑口付部に防音扉を設置し、環境対策を行う工法

【施工フロー】



【主な改定概要】

- ・適用範囲（内空断面積）の拡大
- ・建設機械の回送時間を考慮した歩掛の見直し

●適用範囲

本資料は、発破工法等で環境対策として内空断面積40m²以上120m²以下のトンネルの防音扉を坑口付部に設置する場合に適用する。

●防音扉設置・撤去歩掛

名称	規格	単位	(100m ² 当り)	
			歩掛 設置	歩掛 撤去
土木一般世話役		人	4.2	2.3
特殊作業員		〃	11.9	6.6
普通作業員		〃	5.2	2.8
とび工		〃	6.7	4.2
溶接工		〃	1.4	0.6
ラフテレーンクレーン運	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 最大吊上能力25t吊	日	1.9	1.9
高所作業車運転	トラック架装・伸縮ブーム・ バスケット型・最大地上高12m 最大積載荷重200kg	〃	2.3	2.2
諸雑費		%	1	1



防音扉設置



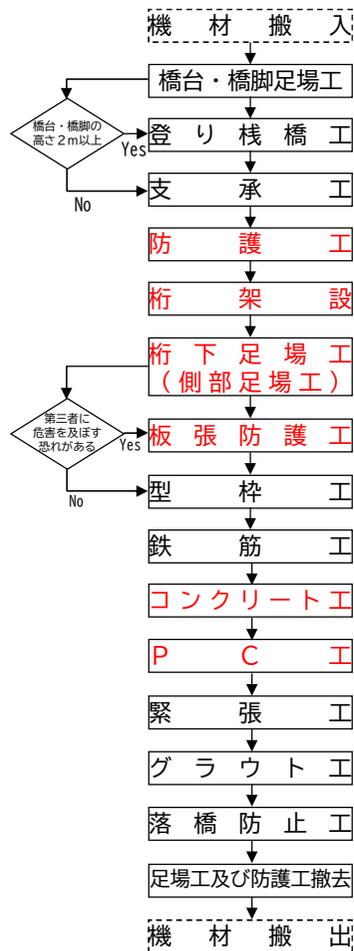
防音扉設置

- (注) 1. 上表の歩掛には基礎の設置及び充填材の投入・打設作業も含む。ただし、防音扉本体・基礎・充填材等の材料費及び基礎の設置・充填材等の投入・打設作業に使用する機械経費については、別途計上する。
2. 諸雑費は、溶接機、溶接材料の費用であり、上表の労務費の合計額に諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。
3. 高所作業車及びラフテレーンクレーンは賃料とする。

プレキャスト工法で製作し、架設地点まで搬入したプレキャストコンクリート桁（PC桁）について、トラッククレーン又は架設桁設備を使用して架設する工法

【施工フロー】

プレテンション桁及び
ポストテンション桁
(少数主桁を含む)



架設桁架設状況



クレーン架設



PC板工



緊張工

【主な改定概要】

- 資材の搬入制約を考慮した歩掛の見直し（トラッククレーンによる架設）
- 建設機械の回送時間を考慮した歩掛の見直し（架設機械据付・解体）
- アンカー既設構造物設置歩掛制定
- 準備、後片付け、移動時間等を考慮した歩掛の見直し

●トラッククレーンによる橋梁下からのPC桁架設歩掛（プレテンション桁）

桁形式	桁1本当りの桁質量	編成人員（人/日）			トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 規格×台数	1日当り 桁架設本数 (本/日)
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員		
プレテンション	BG-18(17.9t)	1	6	1	120t吊×1台	7
	BG-19(18.9t)					6
BG-20(21.5t)	160t吊×1台				6	
BG-21(22.5t)					6	
PC単純	BG-22(25.3t)	200t吊×1台	5			
T桁橋	BG-23(26.4t)					
	BG-24(29.4t)					

●アンカー既設構造物設置1箇所当り編成人員

(1箇所当り)

編成人員（人）			諸雑費率（%）
橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員	
0.19	0.52	0.29	46

(注) 1. 諸雑費は、アンカーボルト、固定金具、ワイヤー、復旧のための材料費、電動ハンマドリル及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

●架設機械据付・解体歩掛

支間長（m）	編成人員（人/日）					編成人員（人/日）		
	20m以上 25m未満	25m以上 30m未満	30m以上 35m未満	35m以上 40m未満	40m以上 45m以下	橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普通 作業員
据付・解体日数（日）	10.5	12	15	17	19.5	1	6	3
ラフテレーンクレーン 実作業日数（日）	6	7.5	9	10.5	11	1	6	3

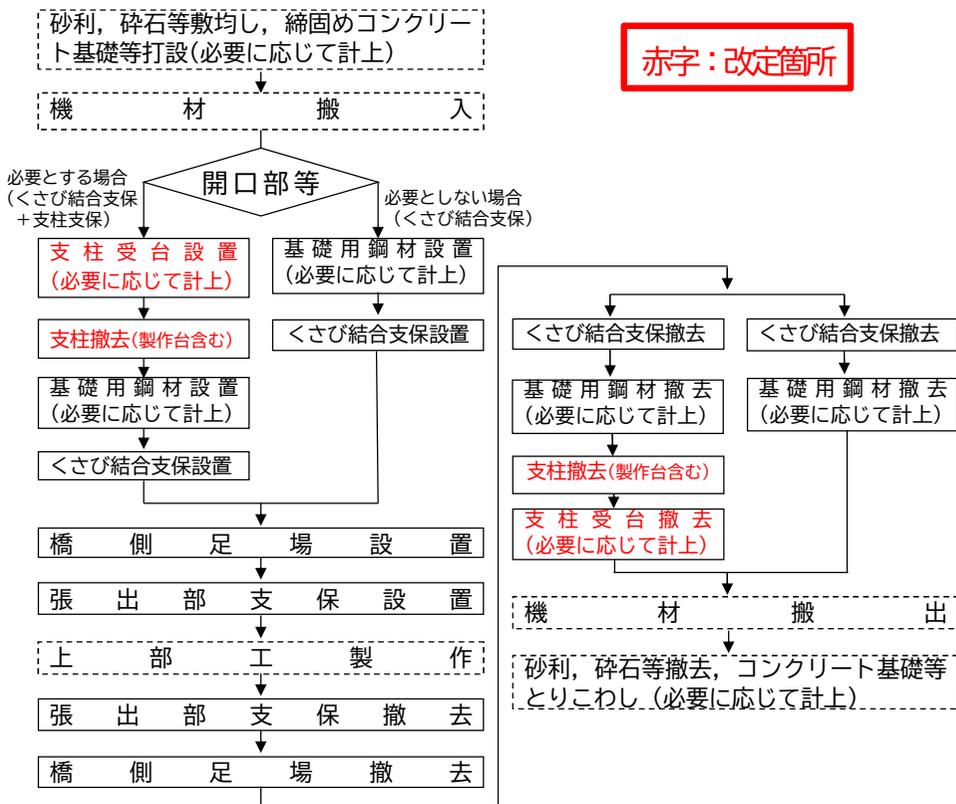
(注) 1. ラフテレーンクレーンは、油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2014年規制）最大吊上能力50 t吊を標準とするが、現場条件によりこれにより難しい場合は、別途考慮する。

2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

3. 上表は、架設桁の据付・解体、トラワイヤの取付け、取外し及びウインチの据付・解体作業の場合である。

場所打ちコンクリート床版橋の製作において、打設したコンクリートが十分な強度に達するまで、橋体を一時的に支えておく工法

【施工フロー】



赤字：改定箇所

【主な改定概要】

- ・支保形式を四角支柱支保から大型パイプ支柱支保へ見直し
- ・支保形式変更に伴い、支柱支保設置撤去歩掛を見直し
- ・支柱支保仮設材賃料表を新たに算定

●支柱支保設置・撤去歩掛

(100空m3当り)

開口部延長(m)	平均支保高さ(m)	名称	単位	支保耐力kN/m ² (t/m ²)			
				19.6(2.0)以上 29.4(3.0)未満	29.4(3.0)以上 39.2(4.0)未満	39.2(4.0)以上 49.0(5.0)未満	49.0(5.0)以上 58.8(6.0)未満
7以下	4.0以上 7.0未満	橋りょう世話役	人	0.82	0.82	0.82	0.83
		橋りょう特殊工	//	3.25	3.25	3.25	3.29
		普通作業員	//	1.02	1.02	1.02	1.04
	7.0以上 10.0以下	橋りょう世話役	人	0.83	0.83	0.83	0.83
		橋りょう特殊工	//	3.31	3.31	3.31	3.32
		普通作業員	//	1.04	1.04	1.04	1.04
10以下	4.0以上 7.0未満	橋りょう世話役	人	0.75	0.76	0.77	0.78
		橋りょう特殊工	//	3.01	3.05	3.08	3.11
		普通作業員	//	0.96	0.98	0.99	1.00
	7.0以上 10.0以下	橋りょう世話役	人	0.67	0.67	0.68	0.68
		橋りょう特殊工	//	2.67	2.68	2.69	2.70
		普通作業員	//	0.84	0.84	0.85	0.86
13以下	4.0以上 7.0未満	橋りょう世話役	人	0.78	0.78	0.79	0.80
		橋りょう特殊工	//	3.08	3.11	3.14	3.17
		普通作業員	//	0.99	1.00	1.00	1.01
	7.0以上 10.0以下	橋りょう世話役	人	0.69	0.70	0.71	0.71
		橋りょう特殊工	//	2.77	2.79	2.80	2.81
		普通作業員	//	0.87	0.88	0.89	0.89

(注) 1. 設置及び撤去の合計であり、構成は、設置60%、撤去40%である。
2. 支柱支保仮設材賃料は、別途計上する。



受桁設置状況



大型パイプ支柱設置状況



支柱支保設置状況

橋の温度変化、コンクリートのクリープ及び乾燥伸縮、加重等による桁橋の変化に対して、車両が橋を支障なく走行するための伸縮装置（鋼製）の取替を行う工法

【施工フロー】

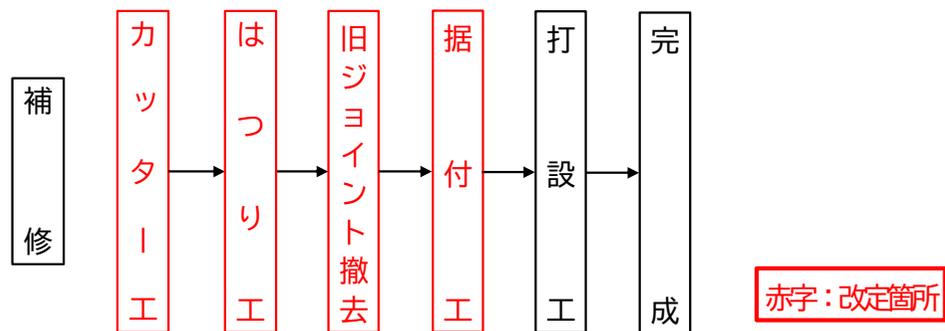


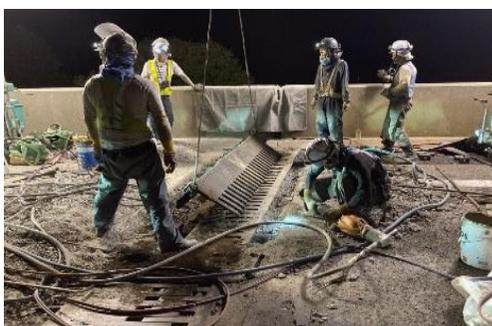
図4-1 施工フロー（鋼フィンガージョイント等から既製品ジョイントへの取替）



カッター工



はつり工



既設ジョイント撤去状況



ジョイント設置状況

【主な改定概要】

- ・ 新設（鋼フィンガージョイント等）の廃止
- ・ 取替工（鋼フィンガージョイント等から鋼フィンガージョイント等）の廃止
- ・ 補修（鋼フィンガージョイント等から既製品ジョイントへの取替）の適用範囲及び歩掛りの見直し

●適用範囲

1-1 適用出来る範囲

鋼フィンガージョイント及び鋼重ね合せジョイントから既製品ジョイントへの補修（取替え）に適用し、鋼フィンガージョイント等のフェースプレート幅は600mm以下とする。

1-2 適用出来ない範囲

- (1) 地覆及び歩道部
- (2) 鋼フィンガージョイント等から鋼フィンガージョイント等への取替え
- (3) 既製品ジョイントから既製品ジョイントへの取替え
- (4) 床版打ち抜き作業となる場合（桁まではつり作業を行う場合）
- (5) 既製品ジョイントの設置に特殊型枠を使用する場合
- (6) はつり作業にウォータージェットを用いる場合

●施工歩掛（補修）

補修の鋼製伸縮装置設置は、次表を標準とする。

なお、本歩掛は、1箇所（単・複車線）当り2日以上で補修が完了する場合に適用し、1箇所（単・複車線）当り1日で補修が完了する急速施工の場合には適用しない。また、仮復旧等を伴う作業の場合にも適用しない。

- (1) 取替工（鋼フィンガージョイント等から既製品ジョイントへの取替え）
(1m当り)

名称	規格	単位	数量
橋りょう世話役		人	0.4
特殊作業員		〃	1.9
普通作業員		〃	0.9
トラック運転	クレーン装置付 通称4~4.5積級 吊能力2.9t	〃	0.3
諸雑費率		%	26

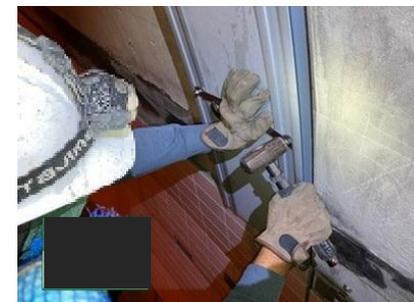
- 施工パッケージ型積算基準は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における機械経費、労務費、材料費を含む単位施工量当たり「単価」を工種区分ごとに設定したものです。
- 「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、施工パッケージ型積算基準及び標準単価表の改定を行いました。
→ 令和8年度は、計8工種の改定を実施

（1）使用機械、労務等の変動により改定を行う工種：4工種

- ①機械土工（土砂）[ブルドーザ掘削]
- ②機械土工（岩石）掘削
- ③機械土工（土砂）[床掘]（ICT）
- ④捨石工



捨石工



トンネル漏水対策工

（2）移動時間を考慮した工種：4工種

- ①排水構造物工（鉄筋コンクリート台付管）
- ②笠コンクリートブロック据付工
- ③半たわみ性（コンポジット）舗装工
- ④トンネル漏水対策工【面導水、線導水、導水樋】


 排水構造物工
 （鉄筋コンクリート台付管）


笠コンクリートブロック据付工

「施工パッケージ型積算方式標準単価表（参考資料）」の公表

施工パッケージ型積算方式の理解向上に資するため、施工パッケージ標準単価の代表機材規格のうち、**代表機械規格及び代表労務規格の参考数量（積算単位当たりの労務の人工数や機械の運転日数等）**を「施工パッケージ型積算方式標準単価表（参考資料）」として、**国土技術政策総合研究所HPに掲載**（令和8年3月末公表）。
 (https://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm)